

第12回佐倉市立保育園等の在り方検討会 会議次第

日時 平成23年1月18日(火)

午後2時から

於 佐倉市役所1号館6階第2会議室

1. 開会

(1) 健康こども部長 挨拶

(2) 佐倉市立保育園等の在り方検討会会長 挨拶

2. 議題

(1) 第11回議論の整理

(2) 提言書について

(3) その他

3. 閉会

資料

- 1 第11回(前回)議論の整理
- 2 佐倉市立保育園等の在り方検討会提言(案) <非公開>
- 3 提言(案)前回からの主な修正点 <非公開>
- 4 はじめに(会長案) <非公開>

議題（1）第11回議論の整理

（1）第10回議論の整理

（2）提言書について

提言の修正指示については、資料3に記載

保育者の質の向上、働く職員の悩みを解決していく仕組みについて

- ・OJTで職場の中で研修を積み重ねて専門性を高めるというのが、保育所にもあるのでしょうか。働く人の意欲も高まりますので、仕組みをしっかりと作って行くことが重要です。
- ・特に保育の場合、日々保護者との対応もあり、難しい問題があります。それを受け止めていくのは、普通は園長の役割です。
- ・園長の質を高めることが重要です。園長が変われば変わります。
- ・今回の提言では、職員については人数の配置のことしか書かれておらず、どう資質を高めて、どう管理者能力を高めるかというところが抜けています。数が合っていればいいということだけでなく、こういう難しい状況の中で管理者の資質や職員の資質をどう高めるか、ぜひ一言加えていただきたいと思います。

学童保育所の受け入れ学年について

- ・3年生までの学童保育所の場合では、例えば3年生の3学期になったら、子どもに留守番の練習をさせ、保護者に一緒に考えてもらいます。今のまま単純に6年生まで受け入れて、6年生まで車での送迎を続けて、生きる力につながるのでしょうか。
- ・今、隣近所が目配せや心配りをしながら子どもを見守るといような、地域やコミュニティの中での地域福祉が重要となり、意識も変わってきたと思います。ただ、4年生から6年生の利用は、保護者の実態がよくわかりません。どうしてもという事情もあるのでしょう。
- ・現場がインストラクター任せになっている状況で、在るべき子育て、在るべき姿を語れる人がいるかというのがあります。インストラクターの先生が、親に対して「4年生になったら一人で家に帰って生活できるように育てなきゃだめですよ」と、教育をするようなことも必要ではないでしょうか。
- ・提言書を見て、きれいごとを言っていると感じる市民もいるかもしれません。しかし、「もしかしたら自分が親として少し浅はかだったのではないか」「子どものことを考えると自立できるようにしていかなければ」と気づくような言葉も入れたほうがいいのではないのでしょうか。
- ・3年生までと4年生から6年生まででは、発達やエネルギー、関心も大きく違って

きます。その中でグループワークをうまくやって、きちんと指導できるだけの力があればいいのですが、ただ遊ばせるではなく、どう質を高めていくかが問題です。

学童保育所の開所時間と延長保育料について

- ・(事務局) 抽象的には書いていましたが、要望があって朝7時からの受け入れも検討はしているので、前向きにどう応えていくかということ提言の内容にしたいと思います。
- ・費用負担をどう考えるか、そのうえで延長保育料を徴収するという事です。

その他全体に関して

- ・地域福祉計画では、福祉圏域、生活圏域という発想があって、その中に適切に施設が配置されていくという視点が必要です。地域の視点で考えるということがなかったため、資料もあるなら入れていただきたいと思います。
- ・これからの保育園は、通園している園児の親だけでなく、保育園にも幼稚園にも通っていない親に対して、子育て広場を展開したり、相談にも乗ったりもしなければなりません。生活圏域に近いところに保育園があるのが望ましいです。
- ・昔だったら考えられないようなことが若いお母さんたちの悩みになっているのが事実です。昔とは違う、今の若い母親の子育て不安を受け止めていける保育の在り方も、考えていく必要があると思います。

3 その他

子ども・子育て新システムについて(事務局説明)

子ども・子育てシステム検討会議の中で作業グループを設置して検討している。作業グループに3つのワーキングチームを設置し、9月末から具体的な内容を検討中。

幼稚園の在り方の検討状況について

- ・定員をオーバーしているほど保護者のニーズの高い公立保育園を民営化しようとしている一方で、定員割れしている公立幼稚園が3つあります。市全体の財産と考えた場合、公立保育園を民営化しようという発想が出る一方で、3つの幼稚園について検討していく動きはあるのでしょうか。
- ・幼稚園で園児数が減ってくるということは、それだけ職員が余ってくるということです。保育園に回っていただければよいのではないのでしょうか。人事交流は、あってしかるべきと考えます。